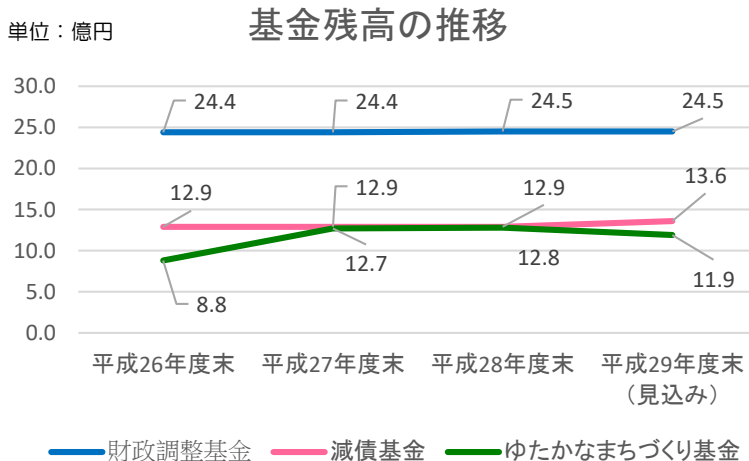


貯金があれば、歳入が落ち込んだときでも、赤字を出さずに行政サービスができます。将来予定されている支出に備えることができます。基金なしで安定的な行政運営を行うことは難しく、一定額の基金は市町村にとって不可欠です。すでに使用目的が決まっている「特定目的基金」より、やりくり用の「財政調整基金」や「減債基金」を多額に持っている方が財政的には安心です。

ただし、毎年基金額が減っている場合は注意が必要です。

美祢市の場合、ある程度の基金が確保されている状況にあります。しかし言い方を変えれば、近年基金に積めていない状況にあると言えます。



(平成29年度県内市町の実質公債費比率)

下 関 市	10.0
宇 部 市	6.3
山 口 市	4.4
萩 市	7.6
防 府 市	3.0
下 松 市	1.2
岩 国 市	6.9
光 市	10.0
長 門 市	8.7
柳 井 市	10.3
美 祢 市	14.0
周 南 市	7.9
山陽小野田市	9.8
周 防 大 島 町	11.5
和 木 町	7.7
上 関 町	10.2
田 布 施 町	12.7
平 生 町	13.7
阿 武 町	0.0
市 平 均	7.4
町 平 均	10.4
県 内 平 均	7.6

(山口県市町課公表資料)

借金とは

市にも借金があります。市町村の借金は「地方債」と呼ばれます。

市町村も借金をするときには、基本的に建物など将来にわたって資産価値があるものしか借金してはいけません。

すなわち、職員の給料やイベントへの補助などに使うために借金することはできないのです。

借金ほどの程度までOK?

将来世代も使えるようなものを建てる時には、世代間の公平の観点から、借金をして建て、現在世代だけでなく、将来世代にも負担してもらうことが基本的な方法になっています。

そのため、どの市町村にも借金はあります。借金額が少ない方が望ましいことはもちろんですが、どれくらい借金があったら財政状況が悪いという絶対的な基準があるわけではありません。

そうしたときに役に立つのは他の市町村との比較です。同じ地方自治・地方財政制度の下でやってきたにもかかわらず、他の市町村の平均的な借金額より、相当程度借金が多い市町村においては、将来行政サービスが削られる可能性があります。

また、借金返済の観点から、人口動向にも目を向ける必要があります。人口が増える市町村と人口が減っている市町村では借金額の重みが違うからです。

右の表は県内市町の財政規模に対する公債費の比率で、県内で一番高い状況にあります。参考までに、18%以上だと、新たな借金をするためには国や県の許可が必要になり、25%以上だと借金を制限されます。

まとめ

美祢市の財政構造は、人口減少や地方交付税の逡減など今後の歳入確保が難しくなることが予想されます。歳出面においても他会計への繰出し金が増加傾向にありますし、庁舎などのインフラ整備に多額の費用が見込まれています。

地方創生の取り組みで注目されている島根県海士町、福島県矢祭町は、財政改革を断行することで地域活性化を図っています。美祢市において、財政構造を改革し、子育て支援、若者への施策、あらゆる世代の方が安心して暮らせるため、そして、過度な借金(起債)を次世代に残さない取り組みが求められているのではないのでしょうか?